



こんなふうに見えることはありませんか？

中心部のゆがみ→



中心部が欠ける →



これは、加齢により網膜の中心部にある黄斑に異常が生じる不可逆的な視力障害の**加齢性黄斑**の症状です。早期は中心部がゆがんで見え、進行すると中心部が見えなくなります。

【原因】

目の奥(眼底)に網膜という薄い膜があり、その中心に黄斑という1.5～2mmの部分があります。その黄斑が加齢に伴う萎縮や新生血管と呼ばれる異常な血管の形成に伴う結膜の浮腫、出血によって起こります。

【分類】

① 滲出型

新生血管が作られることにより発症します。新生血管は水分、血液が漏れやすいことから、網膜の浮腫や剥離の原因となり、進行が早く、視力低下が急速に進行し、失明に至ることもあります。

② 萎縮型

加齢に伴う黄斑の萎縮によって発症。ゆっくり進行するため、視力低下の進行も遅く、失明に至ることはほとんどありません。しかし萎縮型から滲出型に移行することがあるので注意が必要です。

【予防】

早期発見(50歳以降の定期的な眼底検査)、禁煙、抗酸化物質(βカロテン、ルテイン、ビタミンC、ビタミンE、亜鉛等)の摂取、目を保護する(外出時のサングラス、つば付きの帽子をかぶる、青色光をカットする眼鏡をかける)。

* 高用量の抗酸化物質のサプリメントも販売されています。眼科医にご相談下さい。

【治療】

① 萎縮型

経過観察を基本とし、禁煙、抗酸化物質の摂取で様子を見ます。

② 滲出型

新生血管の抑制を目的とし、**レーザー光凝固術**、**光線力学療法**、**抗VEGF療法**などを行います。

レーザー光凝固術—レーザー光を新生血管に照射し、発生した熱により凝固破壊する治療法です。

周辺の正常な網膜も凝固破壊してしまう可能性もあり、治療対象が限定されます。

光線力学療法—光感受性の薬剤と非発熱性のレーザーによる治療方法です。周辺の正常網膜には影響を与えず、新生血管を選択的に破壊することができます。継続的な治療が必要で3ヶ月毎の定期治療が必要となる場合があります。

抗VEGF療法—新生血管の形成を促す血管内皮増殖因子(VEGF)を阻害する薬を硝体内に注射する事で新生血管を抑制する治療法です。完治は難しく継続的な治療が必要です。治療に際し感染の危険性、高額な治療費負担などの問題点もあります。

50歳を過ぎたら定期的な眼底検査を受けましょう！

参考文献：日本眼科学会HP、ENIF医薬ニュースVol.22

どこの病院・診療所の処方せんにも対応できます。

(お薬によっては時間がかかることがあります)あすなろ武川薬局

薬・健康食品・サプリメント等についてのご相談を受け付けています

TEL 0551-26-3800

FAX 0551-26-3810